

2026年4月2日

各位

東京建物株式会社
株式会社博展

東京スクエアガーデン「京橋の丘」で野鳥との共生体験 廃材を再生利用したリジェネラティブな「京橋の巣箱」を設置 巣箱内の様子をライブカメラで観察できるビューイング展示も

東京建物株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 社長執行役員 小澤 克人、以下「東京建物」）および株式会社博展（本社：東京都中央区、代表取締役社長執行役員 原田 淳、以下「博展」）は、東京建物等が保有および管理する複合ビル「東京スクエアガーデン」（東京都中央区）の立体緑化空間「京橋の丘」において、剪定枝や枯葉、建物由来の廃材などを再生利用した巣箱「京橋の巣箱」を2026年4月2日より設置しましたのでお知らせします。「京橋の巣箱」設置プロジェクト（以下「本プロジェクト」）により野鳥の営巣を支援し、巣内の様子をリアルタイムで観察できるライブビューイング機能を備えることで、都市における自然との共生体験を提供します。



「京橋の巣箱」を設置した東京スクエアガーデン3階「京橋の丘」の様子

「京橋の巣箱」は、卵の殻をベースとし、「京橋の丘」の植栽剪定作業で発生する枝葉や、「大手町タワー」（東京都千代田区）敷地内の緑地「大手町の森」の管理作業で剪定された丸太などの廃材を再生利用し、3Dプリンター等のデジタル製造技術を生かして鳥の巣のように編んで制作しました。2種類のデザインを展開し、木肌に調和する卵型フォルムや丸太から自然に立ち上がる形状など、野鳥が安心して営巣できる構造を追求しています。また、野鳥の巣作りの材料として、東京スクエアガーデンで開催したイベントの廃材を提供する「巣材スタンド」も設置します。巣箱内にはライブカメラを内蔵し、ライブビュー用のモニターから、鳥たちがどの素材を選び、どのように巣を形成していくのかを観察できます。これにより、都市生活者が日常の中で自然の営みを感じ、生態系や循環型資源利用への理解を深める機会を提供します。

本プロジェクトは、役目を終えた廃材に新たな命を吹き込み、都市部において野鳥たちの生活環境を用意し、見守ることで、リジェネラティブな生態系循環への貢献を目指します。

● 本プロジェクトの背景

東京スクエアガーデンは、東京メトロ銀座線「京橋」駅に直結し、さらには JR「東京」駅や銀座エリアも徒歩圏内と抜群のアクセスを誇る大規模複合ビルでありながら、地下1階から地上5階にかけ、高さ約31m、約3,000m²におよぶ立体緑化空間「京橋の丘」が設けられ、四季折々の美しい彩りを見せる植栽が施されており、生物多様性に配慮した環境保全の取り組みが高く評価され、「いきもの共生事業所[®]認証 (ABINC 認証)」をはじめとする、多くの認証や表彰を受けています。

本プロジェクトは、そんな都市部にありながら豊かな自然を感じられる「京橋の丘」等において発生する廃材を再生利用し巣箱を制作することで、本来廃棄される素材を新たな価値として循環させます。また、訪れる人々が巣づくりの素材選択や営巣プロセスを観察できる環境を構築することで、都市部で過ごす人々に対して自然との共生意識を育み、リジェネラティブな社会への気づきと行動変容を促進します。

● 「京橋の巣箱」の特長

1. 自然素材を循環させるリジェネラティブな巣箱構造

本プロジェクトで制作・設置する2種類の「京橋の巣箱」は、剪定枝や枯葉、布の断片、建材端材などの廃材を素材として再生利用し、3Dプリンターを活用して形成しています。素材の粉碎やペレット化を行い、木肌に調和する自然な質感を実現すると同時に、内部構造は雨水侵入を抑え通気性を確保するなど、野鳥が安心して過ごせる仕様としています。素材そのものが持つ多様性が巣箱ごとの個性となり、都市内循環を象徴する造形となっています。

・ Cocoon Nest

木肌にそっと寄り添う「小さな命の卵」を思わせる、有機的なフォルムの巣箱です。設置する木に付着していた昆虫の卵形のサナギからヒントを得てデザインしました。卵の形は、外からの力を均等に分散させるため非常に頑丈で、滑らかな曲線が風雨をスムーズに受け流します。さらに、内部の床を高くすることで通気性を保ち、雨水が浸入しにくい快適な空間に仕上げました。Cocoon (サナギ) の巣箱から小鳥が羽化し、羽ばたくことを祈っています。



・ Growing Nest

大手町タワーの敷地の約3分の1に広がる緑地「大手町の森」から切り出された剪定丸太を生かし、まるで木そのものが自然に成長して形作られたかのような巣箱です。周囲の木々と完全に一体化して風景に溶け込むことで、外敵の目から小鳥たちを安全に守るカモフラージュの役割も果たしています。



2. 巣箱内の営巣をリアルタイム観察できるライブビューイング

「京橋の巣箱」内部には小型ライブカメラを内蔵し、鳥たちが巣づくりに使用する素材の選択や営巣過程をリアルタイムで観察できる仕組みを整えました。オフィスエントランスに設置されたモニターを通じて、訪れる人々は都市空間にしながら自然の営みを間近に見ることができます。巣づくりの過程を“ショーウィンドウ”のように可視化することで、生物多様性への理解促進や自然保全への意識向上を図ります。



3. 都市の生態系を支える「巣材スタンド」の設置

鳥たちは小枝や葉だけでなく、人間の生活空間に存在する多様な素材を生かして巣を作ります。本プロジェクトでは、東京スクエアガーデンのイベントで役目を終えた端材や建物から出る廃材などの生分解性素材を集めた巣材提供スタンドを設置し、自然由来・都市由来の素材を鳥たちに選択してもらう仕組みを導入しています。これにより、人間にとっては不要になったものが野鳥たちにとって大切な「家」の一部になるという、都市の中で豊かな生態系が育まれるプロセスを支え、鳥たちの生態をより深く理解できる場を生み出しています。



● 「京橋の巣箱」の設置概要

名称	京橋の巣箱
設置場所	東京スクエアガーデン 京橋の丘3階 (東京都中央区京橋3-1-1/東京スクエアガーデン3階)
アクセス	東京メトロ銀座線「京橋」駅直結、 東京メトロ有楽町線「銀座一丁目」駅徒歩2分、 都営地下鉄浅草線「宝町」駅徒歩2分、 JR「東京」駅徒歩6分、JR「有楽町」駅徒歩6分
設置日	2026年4月2日
設置主体	東京建物株式会社
企画・プロデュース・制作	株式会社博展
制作協力	株式会社光伸プランニング
監修	公益財団法人日本鳥類保護連盟
公式サイト	https://tokyo-sg.com/

● 日本鳥類保護連盟からのコメント（原文）

東京スクエアガーデンは、植樹や壁面緑化がふんだんに行われ、3階までの低層階周囲には大都市にはまず見られない環境が創られています。特に3階の京橋の丘には、緑化された屋上テラスと南面にめぐらされた大規模水盤があり、そこには常に数種類の鳥たちが憩い、すでに鳥たちのオアシスとなっています。

この場所での新しいチャレンジは、“シジュウカラの営巣環境を整える”こと。私たちのこれまでの経験をもとに、巣箱をどのように架けるのがよいのか、営巣に必要なもので今ここに足りないものは何か、などを議論しながら施工案を作ってもらいました。シジュウカラが、ちょっと変わった京橋の巣箱を気に入ってくれることを祈りつつ、私たちも見守っていきたいと思います。

● 東京建物のリジェネレーション（Regeneration）に関する取り組みについて

近年、地球環境や社会環境を取り巻く課題は深刻化し、特に気候変動の影響は一層過酷さを増しています。こうした状況の中、国際社会では「サステナブル」にとどまらず、自然や社会を再生成し、より良い未来を創造するという新たな概念が広がりつつあります。こうした背景のもと、東京建物は、2024年11月に国際カンファレンス「RegenerAction Japan 2024」において「Regenerative City Tokyo」構想を発表※1、続く2025年10月の「RegenerAction Japan 2025」では Regenerative City として目指す姿を示した声明文「Regenerative Cities Manifesto」を発表する※2とともに、国内外のリジェネラティブな取り組みを紹介するオウンドメディア「REGENE」を公開しました。これらを通じ、一つの組織を超えた世界的な潮流を創出しながら、東京からリジェネラティブな世界を実現してまいります。

※1 関連リリース：<https://tatemono.com/news/20241125.html>

Regenerative City Tokyo 公式サイト：<https://regenerative-city.jp/>

RegenerAction Japan 公式サイト：<https://regeneration.jp/>

※2 関連リリース：<https://tatemono.com/news/20251031.html>

Regenerative Cities Manifesto：<https://tatemono.com/news/news20251031/manifesto.pdf>

REGENE：https://regenerative-city.jp/media_regene/

● 東京建物について

東京建物は、1896年（明治29年）創業の日本で最も歴史ある総合不動産会社です。2030年を見据えた長期ビジョン「次世代デベロッパーへ」を掲げ、事業を通じて「社会課題の解決」と「企業としての成長」をより高い次元で両立することで、すべてのステークホルダーにとっての「いい会社」の実現を目指しています。東京建物公式サイト：<https://tatemono.com/>

● 博展について

博展は、パーパス「人と社会のコミュニケーションにココロを通わせ、未来へつなげる原動力をつくる。」のもと、多様な“体験”を統合的にデザインし、企業や団体のマーケティング課題の解決に貢献しています。博展公式サイト：<https://www.hakuten.co.jp/>

以上